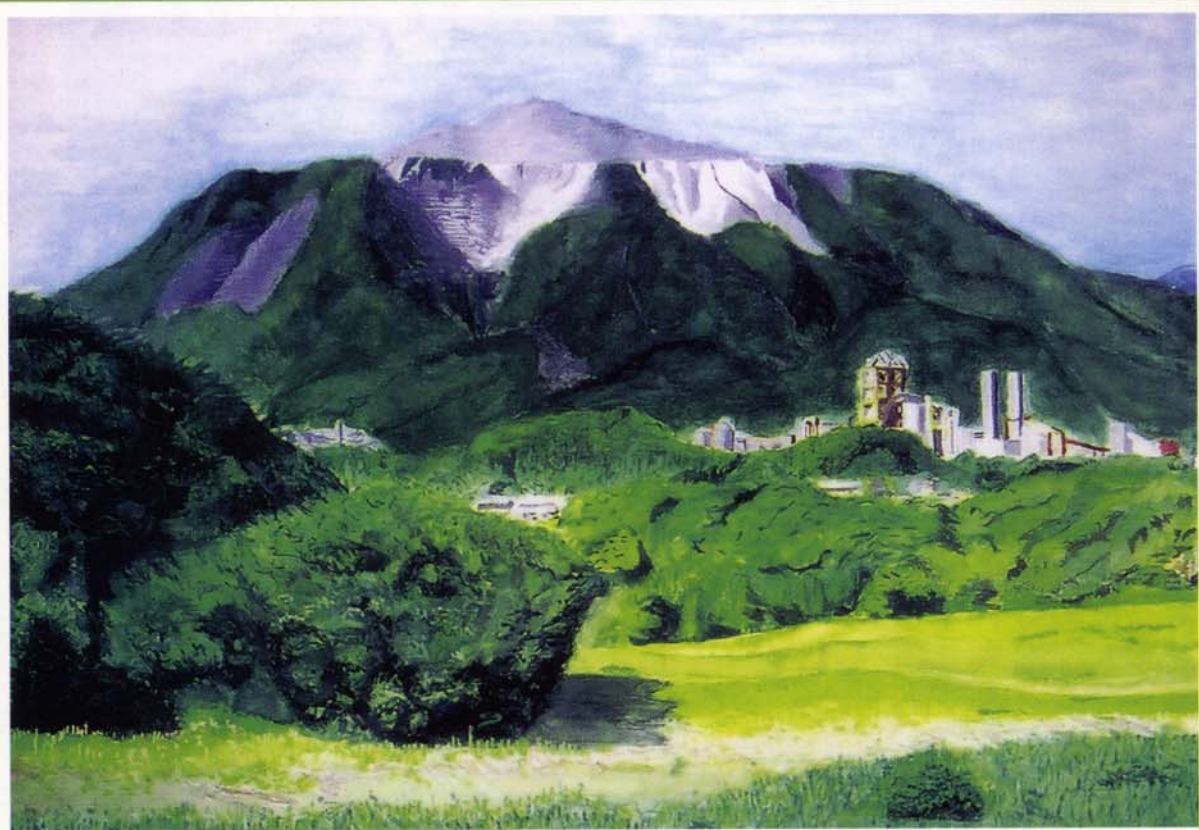


杜乃柞

秩父神社社報
柞乃杜(ははそのもり)

第 27 号

平成15年7月20日
(川瀬祭)



香淳皇后御歌

秩父のはや

居久島の鯛

長良の鮎

北海道の鮭

魚がきけるかな

子らの夏まつり

秩父なるこの山里の 里びとの母なる神の かむ神さびた ははその杜もりに
 今宵また 夏のさかりに うまし子ら 勇みて集ふ

杜はいま いのちに満ちて 深みどり ゆには境内を包む
 今宵こそ 夏のひととき 子らの曳く標しるしの山の 競うづひあひ ゆには境内を埋む

時みちて タやみのなか 日ひの御碕みさき すさのをの神
 いとし子ら 病みてならじと 子らのまつ ゆには境内に立たす

昔より 子をもつ親の まな子なる我が子のいのち 神にも祈る
 今もなお 尊きいのち 揺るぎなく 健やかなれと 神に祈らむ

反歌 かへしうた

深みどり ゆには齋庭に満ちて わらべらの 声さはに立つ 祭りなりけり

解説 秩父神社 (26)

秩父市文化財保護審議委員

坂本才一郎

◆ 祇園祭

祇園祭で規模も大きく盛大なのは、京都の八坂神社で行われ、七月一日の吉符入（神事始め）から約一ヶ月にわたって、おこなわれる数多くの神事（行事）を総称していわゆる京の祇園祭である。

八坂神社は祇園社と称していたが、神仏分離により鎮座が山城国八坂郡祇園町であるので、郡名をとって八坂神社と改称し、全国の祇園社・天社が八坂神社、八雲神社、



素盞鳴尊神社などと改名した。また祇園祭山鉦連合会が刊行した『祇園祭』には、吉符入りのときの祭壇の写真が掲載されている。祭壇には祇園牛頭天王の掛軸がみられるように、八坂神社も明治前は牛頭天王を御祭神とする祇園社であった。

それでは、牛頭天王と祇園祭について話をすすめる。気が遠くなるような京都大徳寺四百三十五世の序文のある「釈迦御一代記図絵」によれば、精舎の建立には境内六里四方とし、五台山をあらわして、五院を建立し、すなわち祇陀院、

療病院、施楽院、安養院、戲楽院なり之等は祇園精舎又は祇園僧坊とも称し、療病院にては国人の病者を医療し、施楽院にては国人に医薬を施し与え、其の他難病者といえども治せざる人はなく、仏法の功德広大なるを知り出家して仏弟子となるもの数知れずという盛況であった。しかし外部から侵入する疫病や盗賊に手をやいていたが、牛頭天王が祇園精舎の守護神となつて禍事がなくなつた。このような霊験あらたかな御神徳によつて天王社が各地に勧請され、祇園信仰はひろまつたのである。

関東では世良田の天王社の「あばれ神輿と歌舞伎屋台」が有名であるが、最近では屋台は街路に飾置ただけで往年の面影はない。

また、県内でも牛頭天王を本尊とする寺は少ないが、飯能市南の天台宗八王寺（竹寺・精進料理で有名）は本尊が牛頭天王である。天王には八人の王子様がおいでになつたので、八王寺と呼ばれた。

秩父の祇園祭には、屋台四基・笠鉦四基が曳行されるが、屋台笠鉦の回転作業、屋根上の

障害排除、雨覆（油紙やゴザなどを使用したため腐食も早かつたらしい。）点灯などは青年部が担当し、拍子木、引綱、屋台囃子は子供衆の担当であるが、最近では子供が少なくなつて親の後援を必要としている。また、祇園祭には御水取という最も重要な行事があり、この行事は古来から行われていた。

若衆から御水役を選定し、荒川行の一行二十名位、昔の対岸はさびしい所であつた。御水役には「御きよめ」だけで、酒は飲ませなかつた。



日本の文化に向き合うこと

— 自分探しの道 —

宮司 蘭 田 稔

初夏の嬉しい風景のひとつに、今年もまた見事な水田風景がありました。

国内のいたるところ、秩父のような山合いの谷間にも東京のような大都会の郊外にも、およそ田んぼの及ぶかぎりに水を張って、整然と早苗を植え尽くした田園風景を目にすると、やはり今年もまた胸の熱くなる思いがするのです。

日本の農業に不案内の私には何故か本当の理由はわかりませんが、ただ単純に有り難いと思うことは、今日ほど稲作が報われることの少ない時代はないのに、農家の人びとが昔と変わらずに今年も米づくりに励んでおられるという事実なのです。おそらくは家族の高齢化と後継者不足で、今は年寄りだけが我が一代かぎりとは諦めつつ、それでも何とか互いに助け合って今年も田植えができたという事情も少なくはないのではないかと。全国の山間僻地のなかには既に全戸が離村して、先祖が守ってきた棚田も見捨てられることが多くなっただけに、ひろびろと田ごとに水を張り巡らせて見事に早苗が育つ田園風景には、以前にも増して深い感動を覚えるのかも知れません。



秩父お田植

しかし、ではなぜ私が今の水田風景に感動するのか。それは、やがては滅びゆく日本の稲作農業を惜しむ感傷にすぎないのか。いや、そうではなく私たちにとって稲作が単なる農業なのではなく、古来二千年に及ぶ日本人ならではの大切な文化だからではないか。

今さらながら考えてみると、近代の日本人は果たして真剣に自分たちの文化に向き合ってきただろうか。むしろ明治維新で千年の伝統文化を切り捨て、昭和の敗戦で更に自国文化の誇りを捨てたのではないか。明治の近代化で日本人がヨーロッパ人になろうとし、さらに敗戦後の経済大国化でアメリカ人になろうとはして来なかったか。

そもそも文化というものは、日本の歴史風土に根ざした日本語の体系のように、ほんらい民俗の宿命的な個性であって、そこに生れ育つ社会の倫理規範や人間の誇りと生き甲斐をもたらし、伝統にはかなりません。ところが明治以来の日本は、その自国文化を他国文化にすげ替えようとした。欧米主導の先進文明を理想の文化とはきちがえて、法律制度から学問教育まで徹底した欧米化の結果が、現代日本の深刻な文化的混迷と民族的自負の喪失とをもたらしたといつても過言ではない。いまや欧米人にもなれず日本人でもない、つまり自国文化に無知無自覚のさまよえる無宿人のような現代人のありさまです。現代社会の混乱と人心の荒廃とは、けっして日本経済の低迷によるばかりではない。まっとうな人間として自己を理解し自己の

誇りと生き甲斐をもたらすはずの伝統文化を、近代化の犠牲にしてきた結果であるのです。

今となつては日暮れて道遠しの憾なきにしもあらずですが、せめて私たちが国際化の現代にふさわしい人の道を見つけるためには、まず現にそこに生れ育った宿命的文化に向き合うこと、

【表紙歌解説】

香淳皇后御歌

秩父のはや 屋久島の鯛 長良の鮎
北海の鮭と 魚がきけるかな

この度の表紙歌は、香淳皇后様が昭和四十二年の宮中歌会始において、『魚』という勅題に際して、お読みになった御歌でございます。

今の時期秩父では、荒川に早朝から菅笠姿に竿を持ち大勢の釣り人が、はや釣りや鮎の友釣りに腕を競っている風景をみます。また今年もこの里に夏がやってきたと感じます。

清らかな水と、四季折々の豊かな自然、そしていつまでもこの恵み多き秩父の風土をしっかりと後世に守り伝えていかなければと痛感するところでもあります。

【表紙絵解説】

今回の表紙絵は、秩父市別所在住で、昭和六十二年生まれの十五歳、山本悠尋君の作品を掲載させていただきました。

また、ご本人から、この度の解説にとコメントをいただきましたので紹介します。



秩父神社神

つまり足元の文化を見つめ直して自分探しを始めることが先決ではないか。初夏の緑あざやかな水田風景に我が心が疼くことも、その一歩なのではないでしょうか。

（学習研究社・週間「神社紀行」第46号『秩父三社・秩父まほろばの神々』（本年10月2日発行）エッセイ《人生の道しるべ》に掲載予定）



『平成十二年、東京都世田谷区より秩父に転入、同年四月秩父第二中学校入学。』

学校の運動場の前に武甲山がそびえていて、季節ごとに四季の移り変わりを知らせてくれました。中学二年生の武甲山図画作文展で、描くために山を見る楽しさを知りました。市長賞受賞。

三年生の夏、連日のように霞んでいた景色が、台風の通過で爽やかに晴れ渡り武甲山がくっきりと見えた日、今しかないという思いで、写生にでかけました。国道二九九号線を飯能方面に向かって、横瀬町の町民会館前の信号の先に、横断歩道橋があります。それをくぐってすぐに左折、道なりに横瀬川を渡り、T字の交差点まで坂道を登って右折、丸山林道方面へ四百メートル程の地点、武甲山を望む場所です。県知事賞受賞。『

現在、県立秩父高等学校一年生、部活は音楽部、パートはバリトン。中学校の卒業アルバムに寄せ書きには、絵についての言葉は一つもなく、歌についてのコメントばかりで山本君の歌声が、素晴らしく、ずっと歌い続けてほしいなど、歌の才能も高く評価され、最近ではミュージカルに出演するなど今後の活躍が多いに期待されます。

社団法人秩父宮会研修旅行報告

本年は秩父宮雅仁親王殿下のご生誕より満百年、秩父宮家のご創立されてより八十年の節目の年にあたります。この記念すべき年にあたり、秩父宮会では、秩父宮両殿下の慰霊・顕彰事業の一環として、宮家緑りの方々や地域との交流を深めるべく、新たに会員による視察研修旅行を計画し、本年より実施することと致しました。

特に今回は、「秩父宮勢津子妃殿下の故郷を訪ねて」と題して、去る四月十七日、十八日の両日、井上会長以下三十七名の参加の下、妃殿下の故郷である福島県会津若松市を表敬訪問致しました。

会津若松市は元会津藩の城下町で、公称二十三万石は東北では仙台藩に次ぐ石高です。藩祖は二代將軍徳川秀忠



御薬園にて



鶴ヶ城全景

公の第四子で、三代將軍家光公の弟である保科正之卿であり、会津藩の基礎を築くと共に、家光公の臨終の際には、四代將軍家綱公の補佐役に任ぜられ、その後二十三年間にわたり幕政に参画して実を上げた功績から、会津藩第三代藩主正容卿の時代より松平の姓と葵の紋を許され、徳川一門でも紀州・尾張・水戸の御三家に次ぐ家格に列せられました。

秩父宮勢津子妃殿下は、会津藩第九代藩主松平容保卿のお孫様にあたります。幕末に京都守護代の職にあつて、公武合体に力を尽くし、孝明天皇の厚い信任を得ていた容保卿でしたが、明治の御世には日光東照宮の宮司にも任ぜられています。

その容保卿の四男で、勢津子妃殿下の父上である松平恒雄氏は、東京帝国大学を卒業後、外交官試験に首席で合格され、駐米英特命全權大使となつて内外に広く活躍をされました。「誠意をもつて外交の本義とす」を信条として、平和外交を推し進めたことで知られていますが、これも会津松平家に伝わる十五ヶ条の家訓に典拠するところと云われています。

今回の研修では、鶴ヶ城をはじめ、

松平家緑りの史跡を多く見学致しましたが中でも国指定の名勝庭園に数えられます「御薬園」(元松平家別邸)には、勢津子妃殿下が嫁がれる日までお暮らしになった「重陽閣」が現在でも保存されており、近く記念レリーフが建設される予定とのことでした。

また、妃殿下がご愛用された東山温泉の新麓旅館で催された懇親会には、会津松平家第十三代当主である松平保定様をはじめ、妃殿下の甥にあたる松平恒忠様にもご臨席を戴いたほか、秩父宮家元宮務官の山口峯生様、菅家一郎会津若松市長様、宮森泰弘福島県教育委員長様など、多くの名士の皆様にお越しを戴き、和やかな内にも特別なお慰労の懇親会とすることができました。

今回、妃殿下の故郷を訪れて、そのお優しいお人柄に触れることができました。また、妃殿下並びに秩父宮家が今日でも会津の人々にとつて心の拠り所であり、郷土の誇りであることを改めて知ることができました。

これを機に、会津若松市と秩父地域との交流が、従前にも増して一層盛んになりますことを大いに期待しております。

◆秩父宮両殿下の御遺品奉納について

この度、秩父宮勢津子妃殿下の甥にあたる松平恒忠様より、社団法人秩父宮会に対して秩父宮両殿下の御遺品計五十六点をご奉納戴きましたので、本紙面においてその一部を紹介させていただきます。

今後、当社平成殿内の秩父宮記念室に常設展示することなどを予定しておりますので、ご参拝の御には是非ともご覧を戴きたくご案内を申し上げます。



雅仁親王殿下ご愛用の勉強机

◆『秩父宮殿下と勢津子姫』の復刻について

秩父宮雅仁親王殿下ご生誕百年また薨去後五十年を記念して、かつて昭和三年九月二十八日の両殿下のご成婚を祝い、永く後世にまで記念する事を目的に出版された「秩父宮殿下と勢津子姫」(非売品の限定出版物)が、このたび装いも新たに復刻されることとなりました。同書には、両殿下のご経歴とご成婚までの経緯などが記されているほか、親王殿下の玉稿をはじめ貴重なお写真も多数収録されています。秩父宮両殿下のご遺徳を顕彰するためにも、秩父郡市在住の皆様には是非ともお求め戴きたい良書であり、秩父宮会また秩父神社としてご推薦申し上げます。

(定価五八〇〇円)

●お問合せ 秩父小石川書店(総発売元)

秩父市東町二二一五

TEL 〇四九四 二二五 四八六

FAX 〇四九四 二二一 〇五六九

梟だより



◆明治神宮・大國魂神社

くらやみ祭り研修視察

事業部長 原 嶋 清

五月五日、秩父神社氏子青年会事業の一環として東京都に鎮座します明治神宮・大國魂神社に参拝研修視察に参加しました。早朝参集殿前に集合し、総勢二十三名の参加を頂きバスに乗り込み、武島会長挨拶に続き伊古田事業部長より当日の行程説明がありました。

明治神宮到着後、各々氏青の梟半纏に袖を通して明治神宮の杜へと足を進めました。この杜は明治神宮鎮座にあたり全国から献木されたおよそ十万本、三百六



十五種の人工林であるその後で伺い驚嘆致しました。木々の緑まぶしく小石が綺麗に敷き詰められた参道の大きな鳥居の下を潜り抜け右に曲がると正面に明治神宮の御社殿が目に入ってきました。誠に心の引き締まる思いが致しました。手水舎で心身を清め神職の方の案内で神楽殿へと進み、そこで舞楽を奏しての巫女の舞を拝観。その後祝詞殿から厳肅の中いよいよ内拝殿へと案内され、会長の玉串奉奠に合せて二十三名深々と心より拝礼致しました。

さて、次の目的地である大國魂神社へ到着。明治神宮の静けさとは違い人混み、遠くからの大太鼓の腹に響く低い音、お祭りの雰囲気伝わってきました。

大國魂神社は大変古い神社で、府中に武蔵国の国府が置かれていた頃この武蔵の「国魂」を祀る神社として国府の中に設けられたそうです。平安時代になりまずと各国府に総社が設けられ、武蔵国ではこの大國魂神社が総社になったとの事です。その後

の平安末期国内の六つの有力社を合祀した六所宮が設けられ、武蔵国の場合、一之宮 小野神社多摩二之宮 小野神社あきる野市 三之宮 水川神社さいたま市 四之宮 秩父神社秩父市 五之宮 金鑽神社神川町 六之宮 杉山神社横浜市を合祀する「府中六所宮」と呼称されるようになったそうです。

大國魂神社例大祭は「くらやみ祭り」とも言われ、かつては八基（前記の六所宮と御本社、御雲宮）の神輿渡御が深夜から翌朝に掛けて行われていたからだそうです。

神社到着の頃には周辺は慌ただしい雰囲気包まれ、御輿を先導する大太鼓が続々と境内へ、また白装束や半纏を着て烏帽子を付けた御輿担ぎの若い衆が集まって境内はクライマックスを迎えるに充分な熱気になってきました。夕方六時、花火の合図と共に神門が開き、人の入る隙間も無い賑わいの中に一之宮の御神輿が上下左右不規則に揺れながら姿を現しました。中近の笠鉦が団子坂御旅所に向かうために秩父神社から出て来るそれと同じ感動を覚えしました。一之宮、二之宮、三之宮と大きな御神輿が続々と正面参道から旧甲州街道へと進んで行き、いよいよ次に神門が開くと四之宮 秩父神社の御神輿が一段と元気に又激しく門から出て来るのを観て思わず大きな拍手をしていました。時間の都合上最後までこの祭を観られませんでした。この度の研修視察は大変有意義なものとなりました。

最後に明治神宮・大國魂神社において秩父神社園田宮司様の御配慮により私達氏青が特別な待遇を受けさせて頂きました事に感謝を申し上げます。

◆秩父神社妙見講

自 平成十五年 二月
至 平成十五年 六月

二月十一日 宮側講
長谷川正雄講元外七十六名
四月二十二日 皆野妙見講
豊田又工講元外三百十五名
五月一日 上野田妙見講
清水恒明講元外四十七名
五月十日 原谷講
堀口喜市講元外五百三十五名
五月十一日 近戸講
鳥塚金男講元外四百四十三名

◆新講元就任のお知らせ

六月一日 中宮地講
高野文吉講元外二百六十五名
六月八日 熊木講
高畑芳久講元外二百四十二名
六月十四日 日野田妙見講
荒船啓介講元外二百四十四名
六月十四日 本町講
守屋英雄講元外二百二十二名
六月二十三日 下宮地講
稲山良守講元外七十七名
六月二十三日 別所講
石川直幸講元外百三十三名
六月二十九日 下郷講
新井征一郎講元外四百五十名

下郷講 新井征一郎様

本年度より当社講元に就任されました。今後とも宜しくお願い致します。

◆柞乃杜神前結婚報告

四月より神前結婚の儀式を挙げられた方々を「紹介いたします」。

秩父市寺尾 内田晃司・由佳様
群馬県太田市 吉元篤史・友記子様
秩父市大野原 山本洋司・美枝子様
秩父郡横瀬町 三砂元彦・淳子様
坂戸市元町 廣岡映治・雅代様
所沢市小手指 小田部家秀・君江様
秩父郡大滝村 千島行久・隆子様
日高市鹿本 浅賀寿仁・ひろみ様
鶴ヶ島市三ツ木 吉澤俊明・久美様
秩父市東町 富樫修一・恵美様
秩父市相生町 宮城武史・恵様
秩父市寺尾 中駐桂助・千明様
未永く幸せな御家庭をお築きいただきますようお願いいたします。

◆ 妙見楽市の開催について

秩父の中心市街地の活性化を更に進めることを目的として、当社宮司が代表を務める秩父未来会議の主催により、当社境内を使用し、主に毎月第四日曜日に妙見楽市を開催しています。

楽市では、地元農家による新鮮な野菜の即売のほか、秩父びいどろ館（須賀邦昭館長の協力により、古時計や古民具などの骨董市を開催しています。

秩父屋台囃子保存会の協力による屋台囃子の奉納をはじめ、様々なイベントも企画をし、手作りながら楽しい市として続けて参りたく存じます。皆様のお越しをお待ち申し上げております。



絵画奉納のこと

この度、秩父神社 大総代である富田 孝様より絵画の奉納がありましたので報告いたします。
富田大総代は、毎年六月中旬に行われる秩父神社恒例行事の一つである神饌田御田植祭の奉納・管理者であります。
今年には梅雨の晴れ間の六月十四日に行われ、祭典終了後いよいよお田植が始まり、富田大総代、ご子息様、そしてお孫さんもお手伝いいただき、親・子・孫の三代一緒に奉仕していただきました。
又本年は、先代富田 敏様が昭和十八年より神饌田奉納を始めて六十一周年を迎え、現ご当主様に代



◆ 妙見楽市開催予定(七月以降)

本年中の開催予定は左記の通りです。

- 七月二十七日(第四日曜日)
 - 八月二十四日(第四日曜日)
 - 九月二十八日(第四日曜日)
 - 十月 十九日(第三日曜日)
 - 十月二十六日(第四日曜日)
 - 十一月二十三日(第四日曜日)
- 尚、十二月はお休みです。

※境内には骨董品店等が多数出店することから、お越しは徒歩若しくは電車、バスをご利用下さいますようお願い申し上げます。

が移り四十年を迎えるという将に節目の年。
これを記念して、当社へ絵画を奉納していただく運びとなりました。
絵画は「華」と題され、さいたま市在住の画家渡辺洋子画伯の作品であります。画伯は院展特待で活躍されております。
富田大総代には、平成十五年春、秩父の里が羊山の芝桜で大変な賑わいをみせ、「ハナ」は実を結ぶ前触れを意味するもの、秩父の里が潤い、実り多き里であることの願いも込められ、そして「はなやかさ」というイメージから女性画伯が描かれたこの作品をこの度、当社に奉納されました。

編集後記

■天王柱立て神事に、子供たちが集い、夏の厳しい暑さに負けないよう元気にすくすくと育んでいってほしいと願いを込めて、ここに社報柞乃杜第27号川瀬祭号をお届け致します。
■今回の社報において、氏子青年会活動報告として、府中に鎮座する大國魂神社の例大祭「くらやみ祭り」研修視察の記事を掲載しました。

大國魂神社は、武蔵国の総社であり『府中六所宮』とも呼ばれるとおり武蔵国の六社をお祀りしており、その一つに当社秩父神社も四之宮としてお祀りされています。

大祭当日、各神輿をすぐそばでお守りする大切なお役目を『奥守り』と呼び、四之宮秩父神社の奥守をお世話になっているのが、稲城市百村在住の松本幸次郎様です。実は、松本様がお住まいの稲城市百村には古くから「妙見さま」がお祀りされ、地元では、周防の水上山妙見宮・百村妙見宮・秩父妙見宮(秩父神社)を日本三妙見と伝えており、妙見様が結ぶ不思議な関係に驚いております。また、折を見て、百村を訪れ妙見さまの報告をしたいと思っております。



※本報の用紙はグリーン・ユトリロマット100の再生紙を使用しています。

平成十五年(二〇三)七月二〇日
編集 秩父神社社務所
発行 秩父神社社務所
〒366-0000 埼玉県秩父市番場町一三
TEL 〇四九四二二一〇二六二
FAX 〇四九四二二四一五五九六
印刷所 有限会社 紙文社印刷所
〒366-0000 秩父市東町二七一八